

国際ワークショップ「GENDER AND DISASTER REDUCTION」

アンケートまとめ(2014/12/17)

①ご参加の目的をお聞かせ下さい。

- GENDER AND DISASTER REDUCTION 調査に協力する立場だから
- 授業の一環として、ジェンダー問題について学習することを目的としました。(3)
- 災害とジェンダー問題の関係を知ること。
- 授業の一環で参加させていただきました。あまりジェンダーについて考える機会が無いので、そのきっかけになればと思っています。
- ワークショップを通して、ジェンダーの必要性を再認識するため。

②ワークショップの内容について

1)講演部(前半)についてのご感想をお聞かせください。

a. 朴木 佳緒留(神戸大学学長補佐)

「二つの大震災からの教訓:阪神・淡路大震災、東日本大震災で起こったジェンダー問題」

- 簡潔で分りやすかったです。どこかで資料を引用させていただいていいでしょうか？
- 女性労働問題の一端に触れることができ、災害時におけるジェンダー問題がどのようなものなのか理解できた。
- 災害時には、女性が雇用の面で男性と同等に扱われないことについて、知識を深めることができました。
- 二つの震災でのジェンダー問題でも違いがあり、女性の就職難の実体を知り、驚きました。
- 災害時には、主に労働に関して深刻なジェンダー問題(女性の雇用が軽視されるなど)が存在し社会的な安定を確保するためには、そのような問題の解消が不可欠であると感じた。
- 災害時には様々な問題が起こる中で、男性の私には気づくことができないような、女性特有の問題があることに気づかされました。また、復興に女性の意見も多く取り入れることはとても重要だと思いました。
- 震災直後に発生する問題として、女性労働問題が挙げられることを知ることが出来た。もっと報道されるべき問題だと思う。

b. 桜井 愛子(東北大学准教授)

「教育現場や地域における女性リーダーの活躍:東日本大震災の事例」

- 学校現場と地域のつながり/あつれきが勘案されるべき点、興味深かったです。
- 女性の意見や要望を取り入れるために意思決定の場(地方自治体など)における女性の参画を促進していく必要があると感じた。
- 東日本大震災で女性の校長が活躍したことからも、リーダーシップに男女の差はないと実感しました。
- 気仙中の校長先生は津波が起こる前から避難対策や防災意識を生徒や先生に持たせていたのが素晴らしいと思いました。
- 学校や地域における防災で女性からの視点というものは不可欠であるため、今後女性の活躍の場がより広がっていくようになるべきであると感じた。
- 災害時における教育現場でも、女性がリーダーであって、問題がないどころか、その方が適切な判断が出来る場合もあるというお話を聞いて、やはり女性が望むのであれば、女性のリーダーをもっと増やすべきだと思いました。
- 女性でも男性と同等の能力を発揮できることを示した良い例だと思う。女性が能力を存分に発揮できるフィールドはまだたくさんある。

c.池田 恵子(静岡大学教授)

「減災・災害対応におけるジェンダー・多様性の視点の定着のために」

- 全体の課題ですか? 「多様性」と「平等」の両立について、さらに考察したく思いました。
- The presentation is very interesting. Exelence research.
- 国が行っている政策を定着させるには地域の連携が必要であることが改めて理解できた。
- 東日本大震災では女性の復興への参画が少ないということが問題となっており、昔からの根強い習慣があることを再認識しました。
- 自主防災組織の存在をはじめて知り、また必要性を強く感じました。
- 東日本大震災における避難所運営はほとんど男性によって行われ、女性のニーズは軽視されるといった状況であったが、多様な人々のニーズに応えるために、女性の参画は欠かすことのないようにされなければならないと感じた。
- 避難所などでの性別による役割分担が自然となされてしまうのは、問題のないことだと思っていましたが、そこにも問題があることに気づかされるなど、とてもためになるお話でした。
- 地域において、災害対応に関する女性の進出の難しさを知った。

2) ワークショップの部(後半)についてのご感想をお聞かせください。

a. Sibel Kalaycioglu

(Professor, Department of Sociology, Middle East Technical University, Turkey)

- 政府と NGO の関係をもう少しつっこんでうかがいたかったです。
- The presentation was clear to explain, that the woman is important related to disaster.
- 女性の地位の向上(男女関係なく教育が受けられるようにする)することによって、災害時における社会の脆弱性を小さくすることができるということが理解できた。
- 女性の脆弱さについて考えさせられました。政府からサポートされる所と NGO からサポートされる所の違いがあることを初めて知りました。

b. Chandrani Bandyopadhyay

(Assistant Professor, National Institute of Disaster Management, India)

- 女性について vulnerability、具体的な説明が inspiring でした。
- Speaker explain regarding gender and how to reduction / participate in the disaster management.
- インドは近年発展を遂げていると思っていたが、女性の識字率がまだまだ低いということにとっても驚いた。
- 海外での女性のリーダーシップを発揮し、どのようなことをしているか学びました。

c. Diah Tyahaya Iman

(Associate Professor, Faculty of Humanities, Andalas University, Indonesia)

- 繰り返しになりますが「女性の仕事に積極的価値を認めること」と「将来的にジェンダー差を無くすこと」がどう両立するか、考えたく思います。
- 女性がそもそも教育を受けることができず、教養が身につかないので、社会に出て行きにくい状況が問題だと思った。
- 地元の方の知恵が重要だと学びました。

d. Shelby Acosta Ruiz

(Civil Defense Officer III, Department of National Defense, Philippines)

- 政策がコミュニティにどのくらい浸透するものか、しにくいのは何故か、さらに伺いたく思いました。
- どの国でも避難所における女性のニーズ（授乳室や女性用更衣室を設置する）は同じものが挙げられることが実感できた。
- 復旧・復興時の女性の活躍の様子を知ることができました。

e. Irwanto

(Associate Professor, Faculty of Medicine, Airlangga University, Indonesia)

- 日本で何故女兒にトラウマが大きいのか、原因を知りたいです。
- 国によって年齢の違いによって、PTSD にかかる人の割合が変化するのに興味深かった。
- PTSD について学びました。

f. Norzalina Masom

(Head, Department for Disaster Risk Reduction, MERCY Malaysia, Malaysia)

- again, equality と (cultural / gender) difference の両立的尊重をどうすれば良いのでしょうか？
- プログラムを実行する上において、量よりも質が大事であることがよく理解できた。
- 災害のリスクを減らす取組みを学びました。

3) パネルディスカッション

とても良かった(0) 良かった(0) どちらとも言えない(0) あまり良くなかった(0)
 良くなかった(0)

4) 全体について

とても良かった(1) 良かった(2) どちらとも言えない(0) あまり良くなかった(0) 良くなかった(0)
その理由をお書きください。

- 議論の時間が足りませんね！
- 初めて話を聞く観点であったため非常に興味深かったです。
- 物心ついた時から、男女平等・男女共同参画の時代を生きてきた私としては、かえってジェンダーに関してあまり考える機会が無かったので、今回の講演はとてより経験となりました。

③本日の「国際ワークショップ」の感想、今後とり上げてほしい話題やテーマがあれば、お書き下さい。ご意見、ご質問も歓迎です。

- How to value both equality (re-distribution) & diversity (recognition) ?
- How to avoid DRR becoming utilized for militaristic purposes?

【回答者】

年齢 20代以下(5) 30代(0) 40代(0) 50代以上(1)

ポジション 学部生(0) 学生(修士課程)(5) 学生(博士課程)(0)

職業 教員(神戸大学)(1) 職員(神戸大学)(0) その他

国際ワークショップの開催を知った経路は

ポスター(0) 学内連絡(2) 指導教員(3) 知人(0) ウェブサイト[大学・推進室・その他](0)
 その他[授業担当教員(1)]